



新年の挨拶

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 赤池 洋

令和7年の新春にあたり、謹んで新年のお慶びを申し上げます。会員の皆様にとって素晴らしい1年になりますよう心からお祈り申し上げます。昨年は新年早々に能登半島地震が発生し、甚大な被害をもたらしました。被災者、要配慮者に対する生活不活発等や災害関連死の予防においては、リハ専門職の支援は重要となっており、今回震災支援に参加された会員の皆様、また直接の支援はできない中でも石川県言語聴覚士会への支援金にご協力をいただきました会員の皆様に深く感謝申し上げます。



さて、令和6年度は診療報酬、介護報酬、障害者福祉サービス報酬のトリプル改定が行われました。現場で働く方々の賃上げ及び処遇改善加算の仕組みが拡充されたことを踏まえ、会員の皆様は処遇改善、勤務実態、キャリア形成等について所属先の状況を把握されていますでしょうか？今回は医療、介護、福祉で異なり、賃上げの実施対象が限定的で言語聴覚士の賃上げに必ずしも反映されていないとの声が寄せられているそうです。ST協会からは会員の状況を把握するために実態調査が行われています。今後の私たち言語聴覚士にとってやりがいのある仕事、働きやすい環境を求めていくためにも現場で働いている会員の皆様の声は貴重な資料となります。ST協会からは常に新しい情報が入ってきますので、アンテナを高く張り、会員同士で情報共有していきましょう。

また、令和6年度より臨床実習指導者講習会がST協会主催で開催されました。当士会より元木副会長と桂川事務局長が受講されました。山梨県は養成校がありませんので、関東圏都県士会を中心に他県との協力を得ながら準備を進めていきたいと考えています。詳細は7頁をご覧ください。

最後になりますが、私自身県士会会長となり、ST協会や関東圏都県士会、県内の他団体、行政など多くの事業に参加させていただいています。社会情勢の変化と共にSTが求められることがより一層多くなっていることを実感しています。当士会は小さい職能団体ではありますが、今までと同様に会員の皆様のご協力がなければ事業を進めることが出来ません。今後とも当士会の活動にご理解をいただき、ご協力をお願い申し上げます。

- 《目次》 P1…新年の挨拶 P2…学術部 参集研修会の再開
P3…失語症者向け意思疎通支援事業スキルアップ研修 終了報告 P4～5…リハ・ケア合同研究大会 山梨
P6…令和6年度秋期都道府県士会会長会議報告 P7…臨床実習指導者講習会/新入会員紹介
P8…ふじやま便 P9…県士会お仕事紹介～がんリハビリテーション推進事業・がん教育～
P10…理事会報告 P11…各局・各委員会からのお知らせ

学術部 参集研修会の再開 ～やっぱり『顔の見える関係』っていいな～

学術部 部長 武井 徳子

今年度より、学術部症例検討会が、参集方式で再開となりました。密にならないように少し広めの会場で、5人程度6グループで行っています。10年目以上の先生の参加も多く、各グループに進行役として入ってもらい、参加者全員が発言する機会を作っています。また、新卒者研修会も参集方式で行っています。今年度は講義と事例検討を行いました。事例検討は2・3人の小グループで新卒者にはファシリテーターが付き、自身で考え・グループで考え・発表する事を行いました。症例検討会の前段階として位置づけ、来年度も行いたいと考えています。

〈症例検討会・発表者の立場から〉

今回の発表にあたり、準備の3ヶ月はST人生の中で最も勉強した時間でした。1つの症状も裏付けとなる解釈の為に20以上の文献を調べました。その結果をまとめるにも誤字脱字や文章力不足のため苦労しました。参加された他施設の皆様からのご教示は自分もそのような視点や臨床力を持てるようになりたいと感じ、次に向けて精進していきます。誠にありがとうございました。

(湯村温泉病院 高木 建汰)



〈症例検討会・参加者の立場から〉

ZOOM開催とは違い、目と耳と体を向けて聴き、お互いに相手を見て話すと、微妙なニュアンスや表情変化をくみ取ることができました。自分の意見を上手く言えなくても、分かろうと、聴いてくれる人の反応を感じながらやりとりできるのは貴重な時間でした。(山梨リハビリテーション病院 萩原 由香)

オンラインでの検討会とは異なり、対面でのディスカッションでは、発表者や質問者の緊張感が直に伝わり、多くの事を学ぶ検討会となりました。これからも感染予防を心掛けながら、医療従事者として、患者様へ還元できるよう検討会に参加し、意見交換していきたいと思えます。(甲府城南病院 小室 良)



〈新卒者研修会・参加者の立場から〉

講義では赤池会長からSTの役割と中村副会長から対人コミュニケーションについて、STとして働く上で忘れてはならない基礎的な部分を学びました。この研修会で実際に先生方、同期の方々と対面し、改めてSTとしての自覚を持つと共に日々の臨床や自己研鑽に対する意欲が高まりました。より良い臨床のため、今後の研修会も励んでまいります。(恵信リハビリテーション病院 福島 未菜実)



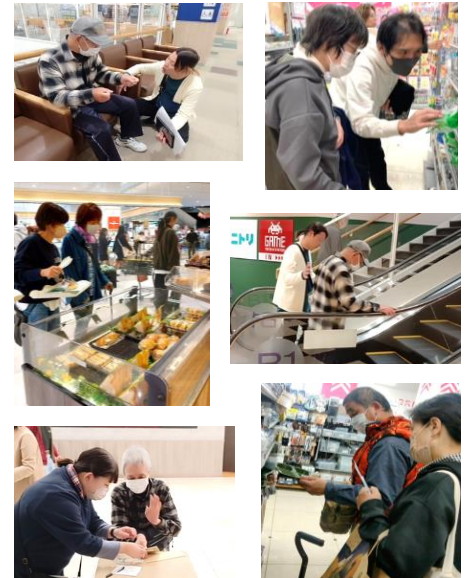
令和6年度山梨県失語症者向け意思疎通支援者養成講習会 今年度スキルアップ研修会のまとめと修了者5名の報告

山梨県失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会 委員長 赤池 三紀子

第7回 10月19日(土): 富士川クラフトパーク
「グループ別外出同行支援実習」支援者2名



第8回 11月10日(日): ラザウォーク甲斐
「ゲームと買い物での外出同行支援実習」支援者6名



運営委員と指導者養成講習会受講STの感想抜粋

- ・実習協力当事者に楽しそうな表情変化や発話意欲の向上が見られ、家族以外とのコミュニケーション機会が重要と感じる。また支援者が「自分のことをわかってくれるからとても安心」と信頼を寄せていた。
- ・外来患者で家族と遠出するのに一年を要した方がいる。外出は当事者にとって楽しみである一方、外に出るには勇気が必要で、いつもより頑張らなければならない現実も知ってほしい。
- ・支援者は同行支援しながらリスク管理や当事者の意向に気持ちを馳せることもできるようになった。
- ・入院等でSTとつながればよいが、家で生活されている当事者が意思疎通支援事業の情報を得ることや利用に手を挙げることは難しい。STは支援者につながるよう情報を提供していく必要がある。
- ・STがどこにいるかもわかりにくく、当事者を含めて社会参加につながりにくい一因であると考えている。
- ・意思疎通支援事業を皆さんに使っていただきたいが、どう広報していくかが課題である。

第9回 11月20日(土): やまなし地域づくり交流センター
「今年度のまとめと個別振り返りと修了式」支援者9名

誇らしい表情の5名の修了者



今年度のスキルアップ研修は9回開催、昨年と今年で計40時間の選択科目を5名が修了されました。参加する登録支援者の顔ぶれが決まりつつある中で、「STの仕事の大切さを知り、病院でのリハと実際の外出における当事者の心持や受け取り方が異なることをこの実習で知った」という奥深い支援者の言葉がありました。講習や実習を通じて、失語症のことをわかってくれる人が増え、限定的でも当事者の言葉を一生懸命に聞こうとしてくれる存在が当事者の活動意欲を向上させ、社会参加に繋がっていくこの事業の意義を改めて強く感じました。支援者やSTからの発信が失語症当事者の生活が変わるきっかけになるように活動を広げたいという支援者の熱い想いを胸に刻み、残る事業のフォローアップ研修会も有意義な開催になるよう努めていきます。この事業の発展のために、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。



リハビリテーション・ケア合同研究大会 山梨 2024



甲州リハビリテーション病院 元木 雄一郎

令和6年10月3日(木)・4日(金)に甲府記念日ホテルおよび常盤ホテルで開催しましたリハビリテーション・ケア合同研究大会山梨2024は大会参加者1381名にご参加いただき、盛会のうちに終了することができました。ご参加・ご支援をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。

大会テーマは「地域リハビリテーション新時代～いざ地域へ～」でした。「新時代」という言葉には、新型コロナウイルスの流行が終息しても、以前の状況には戻れないという認識が込められています。また感染対策を講じながら、ICTやDXの進化に伴い、地域リハビリテーションのアプローチも新しく変わっていくと考えております。そして「いざ地域へ」という言葉には、高齢者が自宅に閉じこもらずに勇気を持って地域のコミュニティに参加する意義が込められており、この大会テーマには佐藤吉冲大会長の熱い思いが込められております。

大会プログラムは大会テーマに沿った分野で活躍されている方々やリハビリテーション・ケアの視点、診療・介護報酬改定からも注視されている医科歯科連携、栄養分野の講演、失語症についての講演など多岐に渡るセッションで構成され、大会長講演、特別講演、教育講演、主催団体シンポジウム、主催団体企画、ランチョンセミナーなどが実施されました。どの講演も充実した内容で、参加者は最新の知見を共有し、活発な意見交換が行われていました。

一般演題では479演題(口述発表264演題、ポスター発表215演題)の登録がありました。当士会会員からも3名の先生方が発表されました。医療・介護の現場で直面している課題や、日頃の取り組み、解決策などについて、各会場で活発なご討議に加え、非常に実りある情報交換の場になったと存じます。

大会の開催に向けて準備委員会は2022年4月から始動し、大会テーマ、ロゴ作成、プログラム構成、当日の運営など全国レベルの学会運営に初めて関わりました。約2年半の期間、実行委員として活動し、普段、何気なく参加している学会がどのように準備され、どのような苦勞があるのかを経験することができました。準備の段階から当日の運営に至るまで、多くの関係者のご協力を得て、無事に開催できたことを誇りに感じております。また近隣病院の皆様のご支援もいただき、温かい人情あふれる大会運営が実現いたしました。

会期中はご不便をおかけした点多々あったかと存じますが、参加された皆様のおかげで大変充実した大会にすることができたと改めて感謝申し上げます。今回の大会で得られた成果をもとに今後もリハビリテーションとケアの分野が発展していくことを願っております。末筆ながら、ご多忙の中、ご協力いただきました県士会の皆様に心より感謝申し上げます。



大会実行委員



エントランス風景



佐藤吉冲大会長



受付



口述発表(武井先生)



交流会

リハ・ケア合同研究大会 発表記



城東病院
中込 夏菜美

今回、摂食・嚥下のカテゴリーにおいてポスター発表をさせていただきました。ポスターでの発表は初めてで戸惑うこともありましたが、無事に取り組みの成果を聞いていただく事ができました。発表後には質問もいただき意見交換もできました。移住してきてから他の ST との関わりが少なかった中、繋がりを持たれたことも 1 つ貴重な経験となりました。学会では多くの学びがあります。今後も積極的に参加していきたいと思えます。

甲府城南病院
橋本 晃典

「摂食嚥下障害患者の食事摂取量に影響を及ぼす要因に関する調査」をテーマにポスター発表を行いました。データ分析やポスター発表が初めてだったこともあり、大変多くのご助力を頂きました。資料の作り方や、データの整理・分析方法も学ぶことが出来ました。また、ポスター作製だけでなく、話す速度や説明の仕方など、予行練習も重要であることを再認識しました。今後も臨床に活かせる知識や技術を学び続けていきたいと思えます。



令和 6 年度秋期都道府県士会会長会議報告



一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 赤池 洋

令和 6 年 11 月 16 日(土)、秋期都道府県士会会長会議がハイブリッド形式で開催され、現地に行き、参加してきました。内容は以下の通りとなります。

1. 失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修の開催（10 月 26 日・27 日：修了者 140 名、累計修了者 1,100 名）、会員マイページの所属士会入力および施設登録（入力なし 57.7%）について報告された（総務部）。
2. 定款の改定について報告された（規約管理部）。
3. 「言語聴覚の日」のイベント共催、開催報告、動画サイト投稿、協会情報誌 STANDUP 執筆について報告された（広報部）。
4. 能登半島地震における石川県言語聴覚士会への支援金（424,895 円）、災害基礎研修開催について報告された（災害対策部）。
5. 言語聴覚士の処遇改善に関するアンケート調査について報告された（職能部）。
6. 「令和 6 年度診療報酬改定等の実態調査」協力の御礼、「実務者講習会成人基礎編・応用編」開催について報告された（医療保険部）。
7. 難聴高齢者支援研修会の開催（9 月 29 日：参加者 134 名）、地域リハビリテーション活動支援都道府県担当者会議の開催案内（令和 7 年 2 月 8 日）について報告された（介護保険部）。
8. 実務者講習会・小児編（乳幼児健康診査への言語聴覚士の関わり：11 月 24 日、ライフステージに応じた支援：12 月 29 日）の開催、障害福祉担当者連絡協議会の開催（11 月 25 日）について報告された（障害福祉部）。
9. 学校教育連携担当者連絡協議会の開催（11 月 30 日）について報告された（学校教育部）。
10. 2025 年度全国研修会の開催について報告された（生涯学習部）。
11. 臨床実習指導者講習会に関する進捗状況について報告された（養成教育部）。
12. 全体ディスカッションでは①臨床実習指導者講習会について②士会・協会間の連携体制構築に向けた取り組みについて活発な意見交換がされた。
13. 第 25 回日本言語聴覚学会（兵庫県）の開催報告、第 26 回日本言語聴覚学会の開催案内（令和 7 年 6 月 27 日・28 日：山形県）について報告された。

詳細は協会ホームページや情報誌 STANDUP をご覧ください。会員マイページの所属士会入力および施設登録につきまして、会員の皆様のご協力をお願いします。

臨床実習指導者講習会

甲府城南病院 桂川 謙祐

2025年度より言語聴覚士学校養成所指定規則が変更されます。今年度は、それに伴って日本言語聴覚士協会主催で臨床実習指導者講習会がオンライン（2日間合計約16時間）で開催されています。今回の受講対象者は、協会と県士会に入会している臨床経験4年以上の言語聴覚士（以下ST）であることを前提に、養成校と県士会から募集され、9月から3月の間に行われる全4回の講習会にそれぞれ振り分けられての参加となりました。当会からは、元木副会長と私が参加しています。次年度以降は、今回の講習会を修了したSTを中心に各地方ブロック単位、もしくは養成校と県士会との共同での開催が予定されています。また、2025年に入学される学生が評価実習や総合臨床実習に出た際に指導にあたるSTは、臨床実習指導者講習会の受講が必須となります。

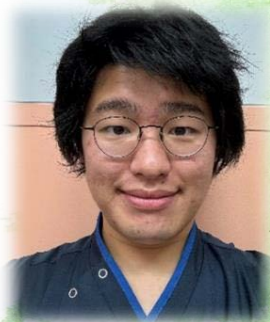
講習会は、養成校のST5名の先生と日本言語聴覚士協会の内山会長の計6名が講義を担当され、その講義を基に6つの演習が行われました。演習については、地方ブロック中心に1グループ6～8名で行われました。内容として多様化する学生像に対する実習のあり方やハラスメントについて、また、実習の到達目標・修了基準、学生評価、実習プログラムの立案など実践的かつ重要な内容が幅広く組み込まれていました。

振り分けられたグループにもよるかと思いますが、養成校として学生を送り出す側のSTと病院や施設で学生を受け取る側のSTが一堂に会しての演習だったこともあり、相互の考え方を交えるとても貴重な時間となりました。本来、臨床実習における学生指導は、言語聴覚士法にもあるように「後輩の育成」という我々言語聴覚士全員の責務であると思います。その大切な責務をより効果的に、よりよい時間として提供できるよう、学生指導にあられる先生方は今後是非受講していただくようお願い申し上げます。

令和6年度 山梨県言語聴覚士会

新入会員紹介

竜王リハビリテーション病院 あかぎ たかまさ
赤木 隆将



4月より竜王リハビリテーション病院に入職いたしました。出身は栃木県で、出身校は国際医療福祉大学です。入職して半年が過ぎ、まだまだ未熟で勉強不足だと感じる事が多々あります。患者様についてのこと、スタッフとしての業務のこと、諸先輩方にご指導いただきながら、日々精進し、STとして、社会人として成長していきたいと思っております。よろしくお願い致します。

令和6年9月28日(土) やまなし地域づくり交流センターにて、第15回定例会を開催しました。今回は11名の当事者さんご家族5名、失語症者向け意思疎通支援者2名、ST7名の総勢25名が集いました。紅組・白組に分かれて体を動かしたり歌ったり、秋を先取りしました。



頑張るぞー！

おー！



こうやって会って
話せることが一番ですね！



次回は年明け…
元気にみんなで
集まりたいですね！



後日届いた

ご家族からの手紙

帰宅すると主人がスマホの写真を
見せてくれました。こんなことは初めてです。
ことばは出なくても楽しかったことが伝わり、私も嬉しかったです。

主人がとても楽しかったとのこと。イキイキした顔が見られて、私もとても幸せでした。元々人と接することが好きな人でしたので最高だったのでしょう。本当にありがとうございました。

定例会で体を動かすことは初の試みでしたが、心も弾む一日になったようです。

作成：「ふじやま」運営委員会

県士会 お仕事紹介

がんリハビリテーション 推進事業・がん教育

がんリハビリテーション推進委員会 中嶋 崇博

当士会では、山梨県からの事業委託を受け、2018年に三士会が協力のもと、「がんリハビリテーションの実態調査(後のがんリハビリテーション研修事業)」を開始し、2019年からは「がんリハビリテーションネットワーク協議会」への参加、文部科学省委託事業の「がん教育」事業への参加も行っていきます。昨年度で、「がんリハビリテーションネットワーク協議会」の事業は終了しましたが、今年度も「がんリハビリテーション研修事業」、「がん教育」においては委員として活動しています。

<がんリハビリテーション研修事業>

PT/OT/ST 士会の委員を中心に、県内における、がんリハビリテーションの実態調査から開始し、現在では年1回の研修会の企画・運営を行っています。県内外からの講師をお招きし、県民向けの公開講座と専門職のスキルアップを目的とした専門職研修を企画しています。

<がん教育>

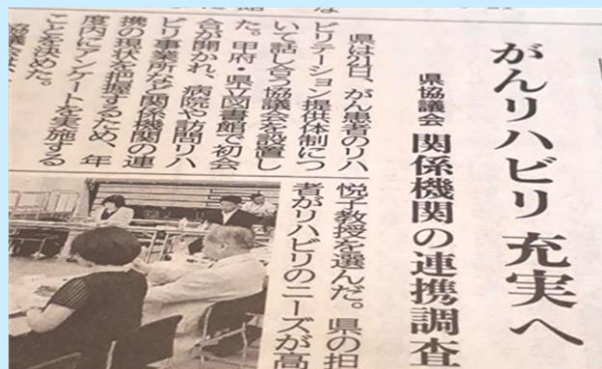
がん教育は、健康教育の一環として、がんについての正しい理解と、がん患者や家族等のがんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めることを通して、自他の健康と命の大切さについて学び、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図る教育とされています。山梨県では2019年より、小・中・高等学校における外部講師を活用したがん教育を推進してきました。委員としては教育庁との会議や意見交換、学校現場の先生方との研修会にも参加しています。私自身も山梨県のがん教育外部講師として登録されています。

<がんリハビリテーションネットワーク協議会>

リハビリ職種に加え、医師・歯科医師・看護師・薬剤師・患者団体等の多職種でメンバー構成され、がん患者が継続的に切れ目のない患者主体のがんリハビリテーションが提供できるネットワークを構築する目的のもと設置されました。県内の病院・診療所・福祉施設・がん患者団体等の協力のもと、がんリハビリテーションの認知度や提供体制等の調査を行い、県民向けのリーフレットの作成や連携事例集の作成を行いました。昨年度で事業計画は終了となりましたが、山梨県のHPからもPDFがダウンロードできますのでご活用ください。



学校の先生方を対象にがんリハビリについて講演した際の風景



がんリハビリテーション協議会の発足が山梨日日新聞で取り上げられた際の記事

第5回 理事会議事録

日 時：令和6年8月16日(金) 19時00分~19時53分
出席理事：赤池(洋)、赤池(三)、佐々木、高橋、武井、中嶋、萩原、舟越、山田、吉澤、桂川

欠席理事：中村、元木、市川、岡

<協議事項>

1. 学術部主催の新卒者研修会は、日曜日もしくは祝日に一括開催することとなった。内容は、言語聴覚士の職務と役割、STのコミュニケーションに欠かせないもの・対人コミュニケーション、事例検討を行う事が承認された。
2. 基礎講座は2講座ずつ3日に分けて開催することが承認された。
3. 県土会リーフレットの修正案について承認された。

<報告事項>

1. 広報部よりRUN 伴やまなし2024 実行委員ミーティングについて報告された。
2. 会報編集・HP 管理部よりウェブサイトのSSL化が完了したことが報告された。
3. 失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会より失語症者向け意思疎通支援者派遣事業の実施に向けた実態調査の結果、第4回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会について報告された。

第6回 理事会議事録

日 時：令和6年9月20日(金) 19時00分~20時30分
出席理事：赤池(洋)、赤池(三)、中村、市川、佐々木、中嶋、萩原、舟越、山田、吉澤、桂川

欠席理事：元木、岡、高橋、武井

<協議事項>

1. 学術部より第1回学術講演会の講師が承認された。
2. 認知症対策推進委員会より認知症家族の会の賛助会員に今年度より入会することが承認された。

<報告事項>

1. 学術部より第1回症例検討会について報告された。
2. 広報部より賛助会員一社の退会、県土会リーフレットの発注および県内高校への送付について報告された。
3. 会報編集・HP 管理部より県土会News59号より印刷会社から協和印刷社から東和プリント社への変更が報告された。
4. 特別支援教育委員会よりインクルーシブ教育推進事業報告についての報告がされた。
5. 訪問リハビリテーション委員会より令和6年度地域リーダー会議について報告された。
6. 失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会より第5・6回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会について報告された。

第7回 理事会議事録

日 時：令和6年10月18日(金) 19時00分~20時41分
出席理事：赤池(洋)、赤池(三)、中村、市川、岡、佐々木、高橋、武井、中嶋、萩原、舟越、吉澤、桂川

欠席理事：元木、岡、山田

<協議事項>

1. 総務部より事務局保管文書は、県土会News等は一冊のみ原本保管し、その他文書・発行物は、年度内もしくは発行後半年間保

管していくことが承認された。

2. 学術部より第2回学術講演会の日程および講師が承認された。年間予定として、今年度2講演、来年度4講演行うことが承認された。
3. 会報編集・HP 管理部より県土会News60号は、リハ・ケア合同研究大会、参集型の症例検討会再開、臨床実習指導者講習会等を掲載することが承認された。
4. 災害対策支援委員会より災害時安否確認システム第2回予行演習を実施することが承認された。

<報告事項>

1. 学術部より第2回症例検討会について報告された。
2. 認知症対策推進委員会よりRUN 伴やまなし2024・啓発展示イベントブース出展(広報部共同)について報告された。
3. 失語症友の会「ふじやま」運営委員会より失語症友の会「ふじやま」第15回定例会、ふじやま通信第15号について報告された。
4. 失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会より失語症友の会ふじやま定例会への支援者派遣、第7回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会について報告された。
5. 県内の高等学校からの言語聴覚士を題材にした授業の要望に関して、高橋理事が対応することとなった。

第8回 理事会議事録

日 時：令和6年11月20日(水) 19時04分~20時26分
出席理事：赤池(洋)、赤池(三)、中村、元木、市川、佐々木、高橋、武井、中嶋、萩原、舟越、山田、吉澤、桂川

欠席理事：岡

<協議事項>

1. 学術部より個人情報取り扱いとして、参加者名簿はパスワードを付けて管理していくことが承認された。研修会の問い合わせ先は県土会HPで掲載可能か検討しておくこととなった。会員講師謝礼についての変更案が承認された。
2. 災害対策支援委員会より日本言語聴覚士協会災害基礎研修伝達講習会を開催することが承認された。

<報告事項>

1. 学術部より第1回新卒者研修会、第2回学術部陪会について報告された。
2. 特別支援教育委員会よりインクルーシブ教育推進事業報告、第3回特別支援教育委員会について報告された。
3. 認知症対策推進委員会より身延町令和6年度認知症を考えるつどいについて報告された。
4. 地域リハビリテーション委員会より山梨県リハビリテーション専門職団体協議会地域リハビリテーション人材育成研修について報告された。
5. 失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会より第8回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会について報告された。

開催方法：オンライン会議

議 長：赤池洋

書 記：石間戸香穂、河村有美、佐藤淳貴、望月智佳

議事録作成：桂川謙祐

<各局・委員会からのお知らせ>

事務局

<総務部>

- ・会員動向（令和6年12月現在）

正会員数129名、賛助会員5団体

- ・会員異動届について

年度末に向けて異動の多い時期かと思えます。会員名簿記載事項に変更のある方は速やかに「会員異動届」をご提出ください。

届出用紙は県士会HPからダウンロードできますので事務局まで郵送またはメールでお送りください。ご協力をお願いいたします。

す。

<財務部>

多くの会員に会費を納入していただきました。ご協力ありがとうございました。未だの方は納入をお願いいたします。

学術局

<学術部>

昨年は学術局主催の講演会や研修会にご協力いただきありがとうございました。本年もより充実した内容の講演会や研修会を企画できるように努めてまいりますので、ご参加の程よろしく願います。

○学術講演会

- ・第1回 学術講演会

会場：Zoomで開催

日時：令和7年1月14日（火） 18:30~20:00

内容：「気管切開患者に対するリハビリテーション-耳鼻科疾患を中心に-」

講師：谷合信一先生（防衛医科大学校）

- ・第2回 学術講演会

会場：Zoomで開催

日時：令和7年2月28日（金） 18:30~20:30

内容：「吃音児者への対応の基本」

講師：坂田善政先生（国立障害者リハビリテーションセンター学院）

○症例検討会

- ・第4回 症例検討会

会場：甲府市東公民館

日時：令和7年2月20日（木） 18:30~21:00

社会局

<広報部>

12月10日に上野原高校で「言語聴覚士という仕事」というタイトルで、3年生12名を対象に出前授業を行いました。学生たちに言語聴覚士としてのキャリアの“きっかけ”を創れるような広報活動を今後も継続して行います。

<会報編集・ホームページ管理部>

会報誌「県士会 News59号」の発行を行いました。会報誌を通じて県士会活動を発信していきます。

HP掲載用に山梨県の季節や名所などを写した写真を募集しています。ふるってご応募ください。

地域リハビリテーション委員会

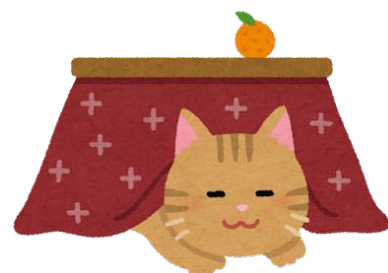
令和7年2月から3月にかけて、地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成研修会 日本言語聴覚士協会初期研修の開催を予定しております。地域リハビリテーション活動支援事業に携わるSTが講師となって、地域での活動も紹介しながら講座を進めていきます。一度、受講された方も再受講可能ですので、ぜひご参加下さい。

失語症友の会「ふじやま」運営委員会

今年度3回目となる第16回定例会の開催を予定しています。今回は制作活動としてほうとう作りを企画しました。山梨の郷土料理、家庭によって入れる材料も異なるほうとうを、当事者の方と一緒に作り、歓談しながら味わってみませんか？ご参加をお待ちしています。

災害対策支援委員会

災害対策支援委員会では災害時安否確認システム第2回予行演習を令和6年11月4日~11月11日に開催しました。第2回予行演習では67名の会員の皆様に参加していただきありがとうございました。第3回予行演習を令和7年2月頃に開催予定としていますので、引き続きご協力をお願い致します。



やさしい聴こえのお手伝い

- 認定補聴器技能者在籍
- 補聴器の無料体験
- 支援法補聴器取り扱い

認定補聴器専門店
なかだて補聴器センター

甲府店 ☎0120-29-3321 玉穂店 ☎0800-800-8173
甲府市中央5丁目2-29 中央市若宮 29-3 T-ウエスト

ジェントル スティム

リハビリテーションのための
新たな電気刺激装置

痛くない療法
感覚刺激
使いやすい

foodCare JAPAN TEL: 042-700-0039 www.food-care.co.jp

morinaga

とろみ調整食品
つるりんこ
シュワシュワ

飲み込みにくいと感じる方が
おいしく、楽しく炭酸飲料を摂取するために

コーラ ノンアルコールビール ジンジャーエール 果汁系炭酸飲料 無糖炭酸飲料

森永乳業クリニコ株式会社 ☎0120-52-0050
受付時間：平日 09:30～17:00
(土日祝日・年末年始・5/1 除く)

Pepti-Sal 唾液のチカラで健康と笑顔を
Oral Health for Everyone

デリケートなお口をやさしくケアし
お口の環境を健康に保ちます

Pepti-Sal (ペプチサル) とは
「Peptide (ペプチド)」+「Saliva (唾液)」の造語。
唾液のチカラに着目して開発された
低刺激性のオーラルケア製品です。
要介護の方の口腔ケアにもおすすめです。

Pepti-Sal MouthGel Pepti-Sal Mouthwash Pepti-Sal Toothpaste

2週間以内
ベプテド
配合

ラクト
フェリン
配合

キシリ
トール
配合

保湿成分
配合

pH
中性域

無
香
無
洗
浄
剤
配合

アル
コ
ル
無
配合

パラ
ベン
無
配合

T&K ティーアンドケー株式会社 www.comfort-tk.co.jp

私たちはシャント発声のプロフェッショナルです

喉頭を摘出された方々のQOL向上のために、シャント発声のリハビリテーションや患者さまを対象にした勉強会を行っています。シャント発声について興味のある言語聴覚士の皆さまには、実際のリハビリテーションの様子や勉強会を公開しておりますので、お気軽にお問合せください。

株式会社アトスメディカルジャパン
〒104-0033 東京都中央区新川1-3-17 新川三幸ビル2F
tel 03 4589 2830 / fax 03 5540 0890
info.jp@atosmedical.com

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会
<発行人> 赤池 洋
<編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 社会局会報編集・HP 管理部

石 和 温 泉 病 院 : 高 橋 正 和
甲 府 城 南 病 院 : 吉 澤 由 香、秋 山 仁 哉、
飯 島 七 海
訪 問 看 護 ス テ ー シ ョ ン 洗 心 : 岡 大 樹
甲 府 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院 : 海 野 友 希
石 和 共 立 病 院 : 菊 原 悠 雅
山 梨 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院 : 古 西 叶 佳
春 日 居 総 合 リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 病 院 : 志 摩 美 月
湯 村 温 泉 病 院 : 高 木 建 汰

<事務局> 医療法人慈光会 甲府城南病院 言語聴覚療科内
〒400-0831 甲府市上町 753-1
<発行日> 2025年2月1日 第60刊

編 集 後 記

今年度最後の県士会ニュースとなりました。執筆時は12月であり、1年が過ぎるのもあっという間だと感じています。今年度は、診療報酬のトリプル改定をはじめ、大きな出来事がありました。その他にも日本では新たな総理大臣の就任、アメリカでは大統領選挙など、激動の1年でした。

私事ではございますが、今年から会報編集部にも所属させていただいております。県士会ニュースを作成するにあたり、執筆いただいた先生方はもちろん、多くの方々のご協力のもと発行されていることを実感しています。また、山梨県の県士会ニュースは、他県と比較しても非常に充実しているとお聞きしました。皆様も熟読して頂き、各号の特色を感じていただければと思います。

さて、今回は第60号という節目を迎えることができました。表紙の色も変更いたしましたので、イメージが一新されたことを感じていただけたと思います。新たな気持ちで、新年度を迎えられることを願っています。(菊原悠雅)